

令和6年度第1回

千葉県防災会議地震対策部会

令和6年11月7日(木)10時～
オンラインによる開催

次第

1 開 会

2 挨拶

3 出席者紹介

4 議事等

(1) 千葉県地震被害想定調査の進捗状況について

(2) 今後の調査計画について

5 閉 会

(1) 千葉県地震被害想定調査の進捗状況について

- ・地震被害想定調査に係る経過

(2) 今後の調査計画の概要

- ・調査スケジュール
- ・想定対象地震、想定項目
- ・被害シナリオ、広報・啓発
- ・減災効果の推計、市町村での活用

地震被害想定調査に係る経過

- 令和5年度第1回千葉県防災会議地震対策部会決定事項(令和5年10月27日)
 - ・ 地震被害想定調査の基本方針
 - ・ ワーキンググループ(「地震被害想定検討専門委員会」)の設置
- 千葉県地震被害想定検討専門委員会を設置(令和6年3月1日、委員長:丸山喜久)(以下、専門委員会)
- 第1回専門委員会(令和6年4月10日)において、企画提案公募を行うための、基本方針に基づいた技術提案仕様を検討。
- 技術提案仕様により公募を行い(令和6年5月1日～6月24日)、受託候補者を決定。
- 第2回専門委員会(令和6年8月20日)において、受託候補者からの提案内容に基づく調査計画等を検討し、検討結果を契約仕様に反映したうえで、委託契約を締結。

(基本方針)

わかりやすく、つかいやすい被害想定とすること

- 県民、事業者、市町村等の関係者がわがこととして捉えることができるよう、わかりやすくとりまとめる。
- 様々な被害状況への対応を検討するため、震源の異なる複数の地震について被害量を算出する。
- 想定結果はプロセスも含めて、可能な限りオープンデータとして関係者が利用しやすいかたちで公表する。

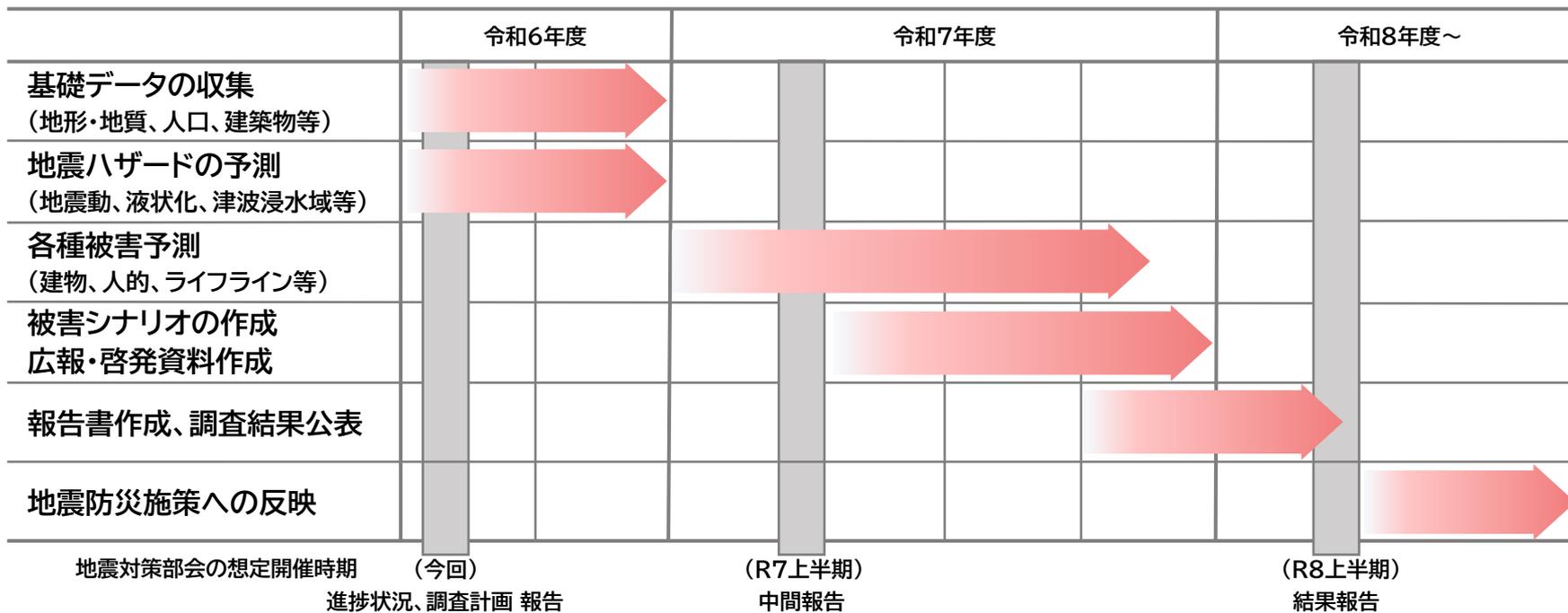
最新の知見と社会情勢を踏まえた被害想定とすること

- 熊本地震や北海道胆振東部地震など、近年の大きな地震が社会に与えた影響を踏まえた想定を行う。
- ビックデータの活用など、最新のデジタル・科学技術を取り入れた客観的な検討を行う。
- 前回調査以降の防災対策の進展や人口構成、就労構造の変化などを反映させるとともに、今後10年の変動を見据えた想定とする。

千葉県地震被害想定検討専門委員会 委員一覧

氏名	所属	専門
丸山 喜久	千葉大学	リアルタイム地震工学
穴倉 正展	産業技術総合研究所	古地震・古津波
野々垣 進	産業技術総合研究所	情報地質学
大井 昌弘	防災科学技術研究所	地震学、地震工学
三宅 弘恵	東京大学	強震動地震学
廣井 悠	東京大学	都市防災、都市計画
中村 友紀子	千葉大学	建築耐震構造、地震防災工学
佐藤 慶一	専修大学	都市防災、社会調査、公共政策
藤本 一雄	千葉科学大学	防災工学、災害リスクマネジメント
石川 永子	横浜市立大学	防災まちづくり、復興まちづくり

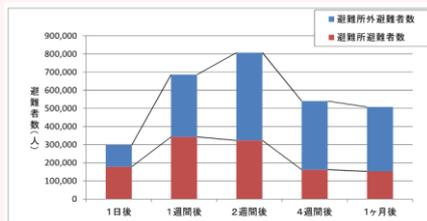
調査計画の概要「調査スケジュール」



地震ハザードの予測



各種被害予測



避難者数の時系列予測

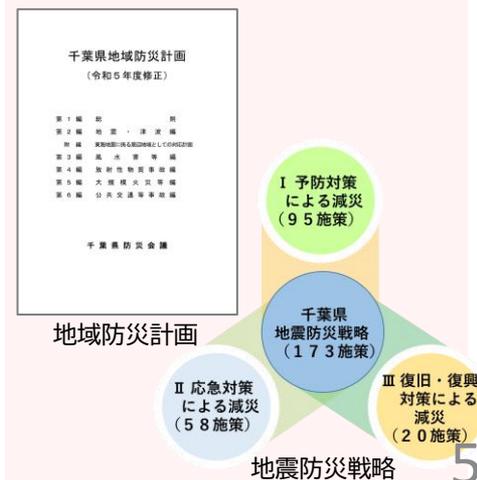
広報・啓発資料作成



ちば地震被害想定HP

ちば地震防災ガイド

地震防災施策への反映

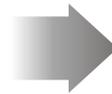


調査計画の概要「想定対象地震、想定項目」

想定対象地震

前回被害想定(H28公表)

- 地震の被害を想定する地震
千葉県北西部直下地震
- 津波の被害を想定する地震
房総半島東方沖日本海溝沿いの地震



今回被害想定(R8公表予定)

- 地震の被害を想定する地震
北西部直下地震に加えて、
県北東部及び南部で揺れによる被害が
大きくなる地震を想定
- 津波の被害を想定する地震
最新の科学的知見に基づき、
房総半島東方沖日本海溝沿いの地震の
断層モデルを更新

想定項目 (定量的に把握する被害想定項目、下線は今回新規追加項目)

1 建物被害等

揺れ、液状化、急傾斜地崩壊、地震火災、津波、津波火災、
ブロック塀・自販機の転倒、屋外落下物

2 人的被害

建物被害等による死者数・負傷者数、自力脱出困難者数、
災害関連死・可能性人数

3 ライフライン被害

電力、通信、上下水道、都市ガス、LPガス

4 交通施設被害

道路施設、鉄道施設、港湾施設

5 生活支障

帰宅困難者、避難者、物資不足量、住機能支障、
医療機能支障、孤立集落

6 災害廃棄物

7 その他被害

エレベータ閉じ込め、大規模集客施設滞留者、
危険物施設、文化財、土木構造物

8 経済被害額

調査計画の概要「被害シナリオ、広報・啓発」

被害シナリオの作成

季節・時間帯、地域特性を踏まえた定性的被害シナリオの検討

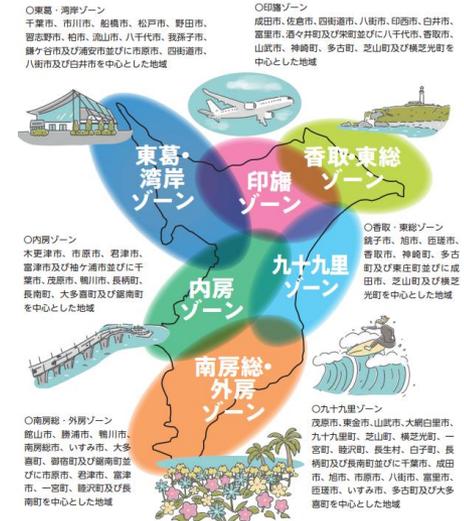
①季節・時間帯ごとの被害様相、②地域特性を踏まえた地域別リスクの2点を軸に、定量的な被害想定では表現できない総合的な被害様相を可視化する。

今後の防災対策で考慮すべき被害様相の検討

避難行動要支援者や外国人等の被災者の属性に応じた避難支援対策や、物資確保対策、被災者の住まいの確保対策、複合災害対策等について、定性的な被害シナリオを作成する。

将来の千葉県の地域特性や社会条件の変化を踏まえた被害様相

将来の千葉県の地域特性や社会条件の変化を踏まえた被害様相について、地域別に検討するとともに、社会条件の変化に伴って想定される脆弱性を整理する。



「千葉県総合計画」におけるゾーンの区分

広報・啓発コンテンツの作成

「ちば地震被害想定ホームページ」の構成、デザインの見直し

閲覧者のペルソナ(属性・立場・状況)に応じて知るべき/知りたい情報やコンテンツにアクセスしやすいよう工夫し、個人の行動変容の後押しに資するページを作成する。



広報用資料原稿の作成

地域別の主なリスクや防災対策上留意すべき課題・ポイントを俯瞰的に可視化した紙媒体向けの広報用資料原稿を作成する。



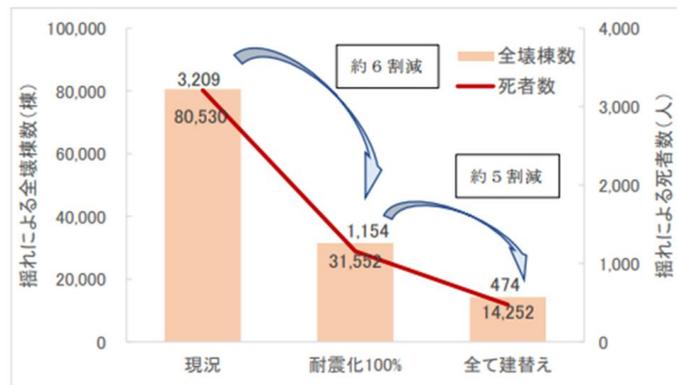
新しいHPのイメージ

調査計画の概要「減災効果の推計、市町村での利活用」

減災効果の推計

減災目標設定の検討資料とするため、将来の防災対策の進展を考慮した被害量の推計を実施する。

各防災施策の進捗管理のため、耐震化率等の主要な項目については、簡易に被害量を再計算できるシステムを作成する。



減災効果のアウトプットイメージ
※ 東京都(2022)より引用

調査結果の市町村での利活用に向けた取組

市町村におけるニーズを把握し、具体的なユースケースを設定したうえで、データベースの整備や、データ利活用ガイドの作成を行う。

ユースケースの設定

○ 地域防災計画等での活用例

市町村単位の情報を把握・整理し、地域防災計画等の前提条件として利用。(深度6以上が想定される町丁目、震度別の建物被害棟数等)

○ 防災施策検討での活用例

避難所需給ギャップの検討、災害廃棄物仮置場の配置検討、備蓄物資の量や保管場所の検討等に利用。

○ 防災教育・訓練での活用例

防災講座や避難訓練における教材として利用。

データベースの整備

- 検索や抽出が容易となるよう、データベースをCSV形式で作成する。

データベース内容(案)

	検索キー	主要なデータ
基礎データ	メッシュコード	地形区分、建物数、人口等
	町丁目コード	建物数、人口等
結果データ	メッシュコード	メッシュ単位の算出結果
	町丁目コード	町丁目単位の集計結果

データ利活用ガイドの作成

- データベースから必要な情報を取り出せるようユースケースごとの操作手順を解説。

ガイド作成イメージ(案)

【市町村で、震度6強以上の町丁目を把握したい場合の手順】

手順1:市町村内で震度6強以上のメッシュを抽出する

データベース操作画面のスクリーンショット

手順2:手順1で抽出したメッシュに該当する町丁目を把握する

データベース操作画面のスクリーンショット